

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400765		
法人名	医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね		
所在地	〒041-0841 函館市日吉町4丁目7-83 (電 話) 0138-32-3223		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価確定日	平成22年1月19日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	21,100~27,100 円
敷 金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院・吉田歯科口腔外科ゆのかわクリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は市街中心地からは離れた丘陵地にあり、同一運営法人の老人保健施設や民間経営のケアハウスに隣接し、静かな環境に立地している。建物は平屋で、ゆとりのある間取りである。住宅地から離れているため、一般的な町内活動は困難であるが、保育園のクリスマスや小学生の社会見学等の受け入れに積極的に取り組んでいる。職員は作業時以外はエプロンをしないなどの細やかな配慮をしたケアを積み重ねるなど、サービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項である市町村との連携については、積極的に市の担当窓口顔に出すなど、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義について職員全員が理解しており、管理者の指導により、サービスの質の向上の機会として職員それぞれが主体的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、議事に関する書類も完備し、出席できなかった者や家族に送付している。情報の発信と運営の透明性を確保する取り組みとして活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所の運営や利用者の生活を伝える取り組みとして、毎月発行している広報誌で家族や地域に伝えている。また、投書箱を設置するとともに、家族等の来訪時に意見や苦情を聞くように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅地と距離があるが、小学生との交流や認知症の勉強会などを開催するなど、地域との連携を図るよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営指針に基づき、事業所独自の理念、目標を立てており、年に一回その検証を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員各自のネームに貼り付けており、ケアの基本が理念にあることを常に意識する取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅の少ない町内会であるため、地域的な活動は限定されているが、その中で小学生との交流や認知症の啓発活動等を事業所で開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の意義を理解しており、外部評価についても真摯な態度で臨んでいる。昨年の改善事項についても迅速な対応で対処し、改善している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政、地域包括支援センター、家族有志、町内会婦人部長などのメンバーで構成しており、2ヶ月毎に開催している。不参加の家族には議事録を郵送し、会議の内容を伝えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口へ事業所の会報を持参するなど情報の交換を行うなど、市と連携してサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報誌を発行し、利用者の日々の生活を家族等へ伝えている。また、金銭管理についてはレシート等を添付して家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。また、家族へ運営推進会議議事録を送付している。さらに、専門の生活相談員により、家族からの意見等を聞き取る対応をしており、家族などの意見を集約し、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は行わない方針であるが、ユニット間での異動については普段から他のユニットとも交流を深め、馴染みの関係を大事にするように努めるなど、利用者のダメージを最小限にするよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内に教育委員会を設置し、職員の総合的な育成に取り組んでいる。さらに、内外の研修会への参加、履修報告など、職員同士で学ぶ体制を構築している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム協議会のブロック長を担っており、2ヶ月毎の研修会で事例検討や情報交換を行うなど、当事業所だけでなく地域のグループホーム全体のサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、利用者が来所した時に、十分に説明を重ね、納得を得ながら、徐々に馴染める関係づくりを行ってからサービス利用を始めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や経験を踏まえ、利用者と職員が支えあう関係を築いている。利用者と話し合ったり喜怒哀楽を共にする生活に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、事業所の都合によるサービスの提供ではなく、本人の希望や意向に沿った暮らしができるような支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人と家族の意向を十分に尊重しながら、一チーム3人でケアについて論議し、介護計画の作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス開始から3ヶ月毎、6ヶ月毎と定期的に介護計画を見直している。また、利用者に病気やケガ、体調の変化が生じたときは主治医の意見をベースに家族の意見も取り入れて臨機応変に対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や散歩、入浴、趣味等、本人の要望に応じた柔軟なサービスの提供に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置法人が医療法人であるため、同一法人内の医療機関と連携し、手厚い体制で臨んでいる。また利用以前のかかりつけ医についても、信頼関係を深めながら医療の重要性を理解し受診できるようにしており、適切な医療が受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と医師、事業所との話し合いで対応しているが完全な看取りができるまでには至っていない。看護職の採用が決まっており、より充実した重度対応のケアに取り組む方針である。	○	早い段階から家族と話し合い、方針の共有化、書類等の取り交わしなど、重度ケアに取り組む体制の整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人台帳や書類等は別室に適切に管理している。また利用者の呼び方や言葉かけについても、職員全員で論議し、個人の尊厳を大切にするケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の体調や気分を優先しながら、趣味や手伝い等の生活への参加を促がし、利用者の意向に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、準備、後片付けなど、本人の自主性と能力に応じた仕事を職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や気分に応じた対応ができるように、毎日入浴可能な体制で臨んでいる。入浴を嫌がる利用者には、無理のない方法で楽しく入浴ができるような支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの聞き取りや生活歴、職歴等を検討し、食事や掃除など、その人にあった役割をもたせ、より楽しく、生活にはりのある自然な日々を暮らせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な外食等により、外出の機会を多く作っている。また、緑豊かな地域の散策や花畑づくりなど、気分転換と外気浴を兼ねてできるだけ外出できるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害については研修会でも学んでおり、職員は十分に理解している。なお、夜は防犯のため鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回消防署の指導により災害訓練を、夜間想定を含め実施している。同じ法人の老健施設とともにっており、災害時における相互の協力体制の強化にも役立っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は管理栄養士が行い、利用者の体調に合わせてきざみ食やミキサー食などの、きめ細かい対応をしている。水分補強も利用者に応じてチェック表で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はゆったりとしており、採光もよく、明るい居住空間を確保している。玄関、廊下、居間、台所、トイレ等建物内は掃除が行き届いており、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇などの使い慣れたものを各室に持ち込んでおり、環境の変化をなるべく少なくしようと努めている。		

※  は、重点項目。